

<p style="text-align: center;">教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>(教育目標) 心豊かで 自ら考え 学び合う 勝加茂っ子の育成</p> <p>(めざす児童像) ・進んで考える子 ・思いやりのある子 ・最後までがんばる子</p>	<p style="text-align: center;">今年度の指導の重点</p> <p>豊かな心の育成 確かな学力の向上 健康・体力作りの推進 かかわり合う学校作り</p>
<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>【学力状況調査の結果】 全国</p> <p>国語Aの正答率は県平均と同程度である。 国語B・算数A・Bの正答率は県平均を下回っている。</p> <p>国語Aの「話すこと・聞くこと」、「読むこと」領域の正答率は県平均を上回っている。 算数Aの「数と計算」、「数量関係」領域は県平均を上回っている。 算数Bの「図形」領域は県平均を上回っている。 国語A Bともに「国語への関心・意欲・態度」は県平均を上回っている。</p> <p>国語Bの「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域は県平均を下回っている。 算数Aの「量と測定」は県平均を下回っている。 算数Bの「数と計算」、「数量関係」領域は県平均を下回っている。</p>	<p>【学習状況調査の結果】 平日にテレビやビデオを3時間以上見る児童や、ゲームを2時間以上する児童の割合は県平均より低い。 平日に1時間以上家庭学習をする児童の割合は県平均より高い。また、「自分で計画を立てて家庭学習をしている」と答えた児童の割合が県平均よりかなり高い。 図書館・図書室を活用する児童としない児童の二極化が見られる。 30分以上読書する児童は県平均とほぼ同等である。 あいさつは、県平均より高く、よくできている。 自尊心が高く、「自分にはよいところがある」や「人の役に立つ人間になりたい」と考えている児童が県平均よりかなり多い。 学習意欲、生活意欲につながる項目である「難しいことでも挑戦している」、「学校に行くのが楽しい」、「地域の行事に参加している」と答えた児童の割合が県平均よりかなり高い。</p> <p>読書が好きな児童の割合が県平均より低い。 学校のきまりを守っている(規範意識)割合が県平均より低い。 家の手伝いをしている児童の割合が県平均より低い。 土日の家庭学習の時間は県平均より低い。それは地域のスポーツ少年団に参加している児童が多いことと関係している。</p>
<p style="text-align: center;">成果と課題</p> <p>国語を中心に校内研究に取り組んで3年目になるが、国語の好きな児童が多くなった。 懇談会などでの家庭への啓発、連携により、長時間ゲームをする児童が少なくなってきた。 あいさつについては、重点生活目標の一つに挙げ、また児童会でもあいさつ運動に取り組んでおり、「よくできている」と答えている児童が増えている。</p> <p>国語・算数ともに活用型の問題に課題がある。(問題の問いを正確に理解できない、長文の読み取りが苦手、自分の考えを文にまとめるのが苦手。) 基礎的な知識を活用して問題を解いたり、資料や文章などを分析・検討して説明したりする力が不足している。 基礎的な事項についても、定着していない傾向にあるので、定期的に復習したり日々くり返して学習したりしていく必要がある。 学年による違いがあるが、学校のきまりを守るなどの規範意識が低い児童が多く、学力面の課題と関係している。</p>	<p style="text-align: center;">課題に対応した改善方法</p> <p>「津山市学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業」「魅力ある授業づくり徹底事業」に取り組み、国語を中心とした校内研究(授業研究)を積極的に行う。 授業改善を進めるため、全校共通項目として「めあてやまとめの提示などの学習の流れ、自分の考えを書くこと、学習規律の徹底」に取り組む。 朝学習の時間を活用し、毎週水曜日に計算、金曜日に漢字に取り組む。 家庭学習の手引きを「自主学習の工夫、新聞の活用、社会や世の中に関心を持たせる」の視点で改善し、学習意欲や活用力の育成につなぐ。 読書活動を「読書週間の定着、本読みカード、朝の読書タイム、読み聞かせボランティアの活用」の取組を通して充実させる。 教育相談、ケース会議なども活用し一人一人の児童理解、支援を進めながら、規範意識を育てる。</p> <p>読み・書き・計算を繰り返し徹底して取り組んでいく。(勝北中ブロック共通で取り組む) 「ノーマディアにチャレンジ」週間を設け、家庭での過ごし方を家族で見直す機会を作る。(勝北中ブロックで同期間に取り組む)</p>
<p style="text-align: center;">取組の検証方法及び検証時期</p> <p>学力定着状況を把握するため、各学年でたしかめテストを実施する(2月)。 児童へのアンケートを実施する(12月)。そして1学期に実施した結果と比較する。 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。</p>	<p style="text-align: center;">達成目標(数値目標)</p> <p>国語A B、算数A Bの平均正答率で県平均を上回る。 土・日の家庭学習が低学年40分・中学年50分・高学年1時間以上の児童の割合を上げる。(80%) 「読書が好き」と回答する児童の割合を県平均以上にする。 「学校のきまりを守る」と回答する児童の割合を県平均以上にする。</p>